

資料渉猟余話

その137

前記以外に、折口研究』である。そのは昭和八年十二月十日から三日間、下語伝承論・「神道と伊那連合事務所にお民俗学」・「古事記の

いて、「神道と民俗研究 第二」・「万葉学」と題して講演を人の生活」・「古事記行っている。主催はの研究 第二」である。下伊那神社協会である。

る。これに加える 先日、宮下上郷図と、本郡での講演は 書館長から、この本前後五回となる。が飯田中央図書館の驚くことに、これ「日夏文庫」に保管ら五回の筆記録がすされてい

しい姿で大切に保存 口信夫と信濃』所載されていた。手に取って拝見しながら、譜」を再度見直してあらためて講演筆記みた。

に当たった下伊那教 すると、折口は大正八年(33歳)から昭和二十八年(67歳)までの間に、何

折口信夫と各郡市教育会 補遺

〜県内各地の講演と筆記〜

鎌倉 貞男

それなら、長野県と百回以上長野県各地で講演や講義を行

を調べようと思っ 前述の『折口信夫全集』所載の「折口信夫年譜」と「信州講演目録」並びに『折各郡市の小学校が多

い。大正期の来県は少ないが、昭和になる頃、つまり折口が四十歳代の頃から講演回数俄然多くな

り、北信・東信・中 演をしてい

も多いたのは松本・東 筑摩・塩尻等の中 信で、全体の半数以上を占める。とりわけ、該地には「折口先生の会」もあり、ほぼ毎年訪れてい

る。講演・講義の内容は、演題から推測する限り、ほとんどが国文学関係である。

折口を招聘した郡 教育会・小県郡教育会が編者の校閲を経て



折口信夫の筆跡(伊豆神社の歌碑拓本)

と、なかなか多 『折口信夫全集』(第三・十・十二・十五)に収録の校閲を経たものと経ないものがあるようだが、各郡市は、それを印刷して基に編集されたので

に頒布した。録 音機の無かった 戦前・戦中・戦後の長い間、折口が長野県教育界にいかにかきな足跡を残したかを知るとともに、県内各郡市教育会の先生方がどれだけ真剣に研鑽を積んだかわかるような気がする。

折口を招聘した郡 教育会・小県郡教育会が編者の校閲を経て (故人敬称略)